

# モモの肥効調節型肥料による効率的施肥法

福島県農業総合センター 生産環境部 環境・作物栄養科

## 1 部門名

果樹－モモ－施肥法

## 2 担当者名

南春菜

## 3 要旨

本県のモモ栽培では、9月に速効性肥料、10月に緩効性肥料の2回施用することが多いが、施肥作業を軽減するため、9月下旬～10月中下旬に尿素苦土被覆肥料入り複合肥料（以下「肥効調節型肥料」という。）を1回施用する試験を実施した結果、慣行施肥並の生育、収量が確保できた。

- (1) モモ「あかつき」を供試した。生育、収量、果実品質は、肥効調節型肥料9月1回施肥、10月1回施肥とも慣行2回施肥と同等であった（表1、図1）。
- (2) 肥効調節型肥料の施用は、9月1回施肥と10月1回施肥では生育、収量、果実品質に有意な差は無かった（表1、図1）。
- (3) 施肥時期、施肥量は、樹園地の土壌診断結果や品種、生育状況等を確認して調整する。

表1 モモ「あかつき」の生育及び果実品質(2023年)

区	幹周 (cm)	樹冠面積 (㎡/樹)	樹高 (cm)	主枝先端 新梢長(cm)	葉色 <sup>※1</sup> (SPAD)	新梢中CN含量		果実重 <sup>※2</sup> (g)	糖度 <sup>※2</sup> (° Brix)
						窒素(%)	炭素(%)		
9月1回施肥	86	39	403	26	48.0	1.6	44.7	350.5	15.1
10月1回施肥	91	36	417	26	48.1	1.6	44.5	357.7	14.8
慣行(9月、10月2回施肥)	85	39	402	22	48.7	1.6	44.6	316.4	15.9

注1) 施肥量(kg/10a)はN:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=16:13.3:12とし、9月1回施肥、10月1回施肥は肥効調節型肥料(商品名:みらい物語もも基肥 N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O=12:10:3)、N=16kg/10aをそれぞれ2022年9月21日、又は10月17日に1回施用した。慣行では、9月に硝安をN=8kg/10a、10月に油かすをN=8kg/10a、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>とK<sub>2</sub>Oは過磷酸石灰と硫酸加里を10月に施用した。2020年9月施肥試験開始。  
 注2) 全項目ともn=4で調査。樹体生育は2023年11月、葉色は2023年9月(※1)、果実品質は2023年8月(※2)に調査した。  
 注3) 樹冠面積(㎡)=東西樹幅(m)×南北樹幅(m)÷2

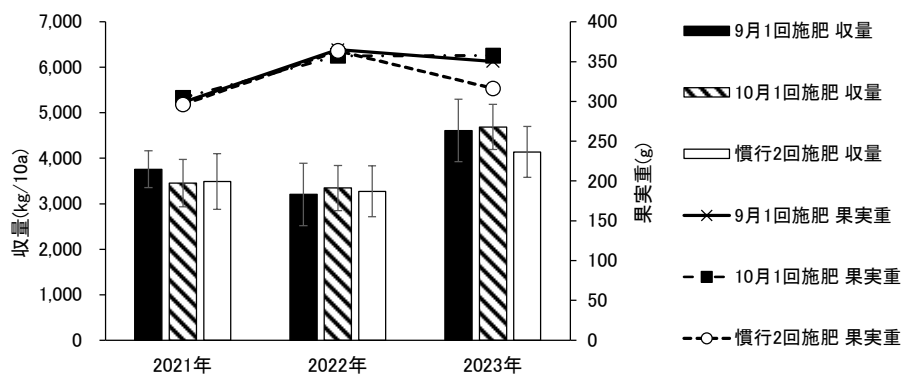


図1 施肥法の違いによるモモ「あかつき」の収量及び果実重(2021～2023年)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～5年度
- (2) 研究課題名 安全で効率的な新農薬・新資材等の実用化〔全国農業協同組合連合会委託事業〕

## 5 主な参考文献・資料

湯田, 基肥一発肥料利用によるモモの施肥作業軽減, 令和元年度参考となる成果